

人

六
七
〇
受
信
一
三
一
五
一
三
〇
三
一
四
〇
〇
電
〇
三
四
四
九
作
機
〇



● 海上護衛總部隊指揮官
● 海軍總隊員・七艦隊員

佐

領

戸

613

機密第〇七〇八五八番電

機密第〇六一五二三番電關聯

第四監視艇隊ヲ唐津方面ニ配備スル件ハ同方面海面防備ヲ統制スベキ
 理地指揮官ナク兵力亦貧弱ナル現状ニ鑑ミ沿岸航路或ニ内鮮航路掩護
 上將來ノ要求ヲモ考慮ノ上執ラレタル措置ニレテ所屬艦ノ大部ハ關門
 機雷對策ニ充當セラルルノ筈ニ付御了知ヲ得度

通三七〇〇 昌一ヨケニニ () 佐通 永井 (松井)

人

七 受信 一四二六
譯始 一六〇八

譯了 一七三四

電 〇三四八三

作 〇
〇

昭和廿年六月八日

615

四 四 警 備 隊
四 鑑 隊 戸



機密第〇七二〇二七番電

發 〇 B 參謀長

通報 「メレヨン」所在陸軍指撥官

伊號第三六九潜水艦ヨリ大變ニ移載セル物件ハ目錄通ニシテ移載數量ニハ間違ナシ 貴機密第二二一五一五番電ニ依ル不足ハ大變作業員ノ中途ニ於ケル不正行為ニ依ルモノト認メラルルニ付嚴重再調査アリ度 尙給養ノ不良等困難ナル情況ハ重々察セララルルモ今後各部隊一層軍紀士氣ノ昂揚ニ努メラレ度。

三七四五

呂一ヨラ十四

B (G F D

池 阪
(齊 ヒ)

丁

六 七 受信一七二七 了十九一二 電〇三五一三 作檢〇・△
開始一八三七

作

吳 通

大本營海軍部

機密第〇七一五〇七番電

海軍省

宛 第三十一戰隊司令官・第四十三驅逐隊司令。第五十二驅逐隊司令

通 吳鎮司令長官・陸本總務部長

聯合艦隊電令第六九一號

第四十三驅逐隊 第五十二驅逐隊へ同天搭載施設（七隻）ヲ急速整備

スベシ。

三三八五三 守田

昭和廿年六月八日

人

六 七
至 急
電信二一九〇〇 譯了二二二五八 電〇三六六七 作 概
〇三六六八
617



東 通
海上護衛總口・七艦隊口・各鎮各警各口・?
機密第〇七一五一五番電 二分ノ一二

宛 大臣 總長 G B 長官

佐鎮戰團概報 (六月七日)

一 B 一 二 九、一機一〇二〇天草方面ヨリ北上大村灣南部ヲ反轉丹母
崎附近ヲ經テ南東ニ脱去ス

右ト略同時刻 P B 四 Y 二二機低高度ニテ南西方ヨリ佐世保海面ニ

侵入志々伎崎及江ノ島間ニ機雷ヲ投下次テ志々伎林及附近ノ特驅潛

一隻攻撃ノ後一〇三五對馬方面ニ去ル九五一空水戰二機及三五二

空戰機九機夫々 P B 四 Y 一 二 及 B 一 二 九ヲ激撃セルモ捕捉スル

通三八六三 呂一 B 一 二 (九八三〇 K) 佐二 志 藤井 (小澤) ()

昭和廿年六月八日

ニ至ラス

ニ戰果ナシ

被等 特羅潛一隻炎上船坐其ノ他調査中ナルモ輕微ノ見込。

一東瀛註 本電C.F.へ通報済

六七 受信二四五
話機〇一三〇

話了〇二五

電〇三六五九

作概

急

急

?

作
着

天航空部隊作戦命令着信既所

機密第〇七一九〇五番電

三甲三空戦闘概報(六月七日)

一 第一次〇九一〇ヨリ(二〇〇)迄此電三九第三次一六〇ヨリ(七甲)迄此電

電二〇五南九州地区ニ未読也ハ敵陸上戦闘機撃撃河上モ敵機去直

後ニ予會敵也ハ

二 戦果上ハ被害 第一次第三次此電各機歸途發動機故障ノ為大車由

及人左附近ニ不時着也ハ一ノ如ク消息不明

通三九七〇

呂B(二)七八七五K(一)KF(五)B(一)

伊藤(居見)

昭和廿六年六月八日

人

六八 受信〇五二五 誤了〇七四二 重〇三七八二作概〇
六拾〇七一〇 高 警 P

619

高力

高警特設之張所全般

台灣版室 高雄方面特根 厚公方面特根 P
高雄警備隊

暗號

機密才〇七一九五五番重

最近敵、攻撃の電報ニ互指向セラレ、已ニ壽山及高根島港
ハ見張所ニ相立、被害アリ、各隊ハ速ニ偽裝散在ヲ
再檢討スルト共ニ四重探ヲ作製通告、位置ニ相立、多敷
急速設置シ陣地兵器保安ニ万全ヲ期スベシ

通四一七二 於一六(三七八二、五〇) 五下G日放

山崎 (小嶋)

昭和廿年六月陸軍

人

六八

差急

作

受信始 〇〇二〇五〇〇

譯了 〇二四五

電 〇三六九〇

作

概 620

海軍總司令部・各鎮・三航艦P
東通・五航艦P・一〇航艦P

阪 替 P

機密第 〇七二一一五番電二分ノ二

宛 大臣 總長

戦闘概報第一九號其ノ二

一七日來襲敵機 撃戦果撃墜二機撃破三機

二被奪 未歸還零戦二機海軍部内經理部第一宿舍全燒 大 阪軍需部

天満需否品倉庫運輸部女子勤務員宿舍船舶警戒神戸支部兵二名

戦死部外主要工場 大阪鐵工所大阪鑄物 新家重工業西村機械角

一工場凸版印刷大阪方又岩崎工場造幣局三菱製練淀川工業

遺留〇二五・山〇・一〇一Bケ十二 (B) 阪 長谷川。山 (六) (二)

昭和六年六月八日

三島重工業永井メリヤス三和糧食大阪毛織全焼
都島區旭區大淀區北區火災最モ大ナル模様ナリ

人

至急
六八受信〇一〇八
談始〇八二〇

談了〇八五〇 電〇三七七一 作概〇

佐鎮尸

621

作
報 東通

沖根尸 海軍總隊尸 五航空艦隊尸
機密第〇七二三五八機電

軍務局長

官房機密第〇六二一四〇番電 岡崎沖根ニ對スル空輸
物件ハ現地ノ要望通リ準備セリ 年榴彈ハ取敢ズ 鹿屋
所在ノモノヲ空輸引續キ 鹿屋宛補充スルコトニ年既済。

通 四〇八二 呂一三ヶ七(九六九〇北) 佐通

久保田正野記

昭和二十六年六月檢印

人

六八 受信〇八三。譯了〇九〇〇。電〇三七八一。作概〇
訳始〇八四〇。

昭和廿年六月

作戦緊急 (發) 佐鎮口

傍 (看) 天一号作戦部隊
機密第〇八七四番電

暗號

〇四三五三重崎、二二八度ニ三七理ニ於テ九五一空哨戒
機一発見セル空母一隻ハ第ニ氷川丸一七日一六。佐老保
発昭南行ニ誤認セル疑アリ。状況確認中。

通四二七八 於十六(九八三。Kc) 佐放 山本(中原)

622

六九

受信一六二四
開始一六一〇

譯了一六五五

電自〇四七二六
至〇四七三〇

整基

623

昭和廿年六月十日

● 鹿屋航空基地

● 東 通・佐 通・?

機密第〇八一〇四三番電

五分ノ一、二三四五

宛 佐世保施設部 鹿屋支部長

通報 佐世保施設部長 佐世保鎮守府參謀長 海軍施設本部總務部長

當除特攻基地整備ニ關シ左ノ各項至急手配頂ヘシ度

一 片浦基地損傷ノ狀況

片浦派遣 隊 内照明電燈配線工事施行ノ件 (本件ハ四月震洋隊進出

通函五六五・四九一〇

四七四六
四七五八

四九五四

天二ニケ十二

佐通内野(吉井)(1)

以來屢關係者ヲ督促中ノ所今電波管制實現ス 戦力發揮上多大ノ不
都合ヲ感シアリ

ニ兒ヶ水灣岸長崎鼻ヨリノ所ニ震洋基地魚速整備ノ件ハ本件ハ今迄ハ

シ武田技師ヲ適シ連絡シアリ 又六月二日附機密佐編命令第二七六

號ニモ發令サレアリ 當隊トシテモ郵付欄基地員進出次第之ニ充當

セシムル豫定

三ハカマゴシ基地第五號乃至八號駁道(魚雷格納庫)トシテ堀^堀濟ノモ

ノ一ヲ第十特攻戰隊司令部及後島分遣隊居住區ニ使用スル件異議ア

ル趣古川技師ヨリ聽及居住所第五特攻戰隊司令部ノ所在位置及第十特

攻戰隊司令官ノ作戰要點ニ關スル^問題等ノ關聯スルモアリ 作戰要

務遂行上取敢ズ必要ニ付當方意見通工專ヲ變更

四新城爆發事件ニ鑑ミ各^基地ニ於ケル震洋格納隧道ハ原則トシテ各

別箇ニ換氣ヲ良好ナラシムルガ如ク至急施工サレ度

五當隊各特攻^機上全波トシテ設^機ノ配分不備ニシ

(2)

昭和廿年六月拾四

〇テハ豫料練及勤 隊等ノミニ依リ爲シツツアル現狀ニテ急速整
 備ノ割當ニ併セズ 先般士 技術中佐ニタダセル所ニ依レバ費支
 部區内航空築城ト 設營力配分ノ現狀ハ概略八對三ノ割合ニ依ル
 趣ナルトコロ本年指定着工前ノ打合セハ該配分ト併行六對四ト申告
 濟ナリ 御參考迄。

624

六九
閑送

受信二二〇〇
譯始二二〇〇

了二三一五

自〇〇四七三一
至〇〇四七三一

作訓

共符

東通、吳通、舞通、横通、佐通

暗號

機密第〇八一四四六番電 因分ノ二三三四

宛 海軍省 軍令部 各鎮

沖繩方面根拠地隊戰訓所見

一 近ク戰場トナルベキ地區ヲ速ニ整理スルコト

〔老幼始産婦等ハ果斷ニ速ニ戰場地區外ニ避退セシムルコト

各種ノ事情下ニ避退ヲ延期ノ爲ニ首領ノ導レナル人々ガ貧弱

ナル防空壕ヲ恃ミニ砲撃聲ノ恐怖下ニ風雨ニ曝サレツツ乞食

同様ノ生活ヲナシツツアルハ見ルニシノビス然モ尙相當ノ戰

死者アルヲ稱レズ故ニ避退ノ要アルヲ痛感ス

八三二、四八七、六一六（五二〇〇）
山崎（表）

昭和廿年六月拾日

(一) 壕其ノ他ノ作業ハ國家的ニ統制スルコト沖繩ニ於テハ海軍自體ニ於テヌラ航空施設ト局地防備施設トガ最後迄締括リナカリシガ如シ陸海軍内務省ヲ通スルトキハ愈甚ダシキモノアリ一定ノ現地工事従事員ニ對シ彼我思々ノ作業ニテハ能力上ラザルコト甚シク隨ツテ全般的ニハ低下シツツアルモノスラアリ速ニ統制ノ要アルヲ認ム

(二) 防空壕多數ヲ完備スルコト將來鐵道國營道路縣道村道トナルベキ豫定地ハ此ノ際先ヅ擬成國營道路ヲ設クルト共ニ町内會部落會及個人格納鎗鑕ヲ設ケ且一時的的生活ヲモナシ得ル如ク一般用ノ壕ヲモ速成スルコト肝要ナリ而シテ家具等ノ必需品ハ壕内ニ貯メ町村ニ町内會ヲシテ速ニ方策ヲ制定セシムルノ要アリト認ム

(三) 交通路ニ連絡者其ノ他通行者ノ爲約三〇〇米置ニ簡易防空壕ヲ設ケ又地形等ヲ利用約千米毎ニ相當ニ設ケルコト

田 森林道路ノ並樹等ニテ偽裝、軍陣等ノ必要ナルモノノ外ハ速
 ニ闊深シ徒ニ敵ノ好餌タラシメザルコト肝要ナリ
 内 戦場地區出身ノ内地人ヲ「スパイ」主トシテ内南洋菲島方面ヨ
 リ潜入セシメタ例アリ。

昭和廿年六月拾日

情

至急
六月一日通信
誤如
三〇
讀了
二〇
二電
四九六
作概。

昭和廿年六月拾壹日

627

二海軍隊
一護衛隊
二戰隊
鮮南方面護衛部隊
鎮守府

機密第一八八五二番電
四分三

發 第三號海河艇長

二八日九日中夕入泊後望山南岸
特設是張所員彈速二倍ハ同
是張所東南海岸ヨリ五日米ニ
口下ト彈 彈着セルコト判明セリ
同是張所ニテ收拾セル口下ト彈
夕ハニヤ全身厚口約五糎
隔ヤ一糎ト推定セル尚是張所員ハ
最初小型飛機行機ノ落下ト誤
認セリ。

（電信譯註 本電四合一二既配布、四合白未着）
通五三五ノ 天二日ケ工（日）吳通 伊孫（傍日）

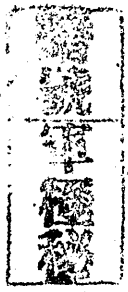
昭和十一年六月拾五日

六一〇 受信〇七五〇 終了〇九一五 電〇四八七三 航作編本〇

至急 共符



●二海防隊ノ一護海隊隊口・二〇二戰隊ノ
●鮮南方面護衛部隊・領海警備府口



機密第〇八一八五二番電 四分ノ一二

發 第二號海防艦長

敵機口ケツト彈攻撃情況

一七日一二〇〇頃海二海三四コウ島ノ二九〇度五海附近對潛掃蕩中

B一二九 二機東方一〇杆ヨリ高度約一〇〇米ニテ來襲六杆ニテ

射擊開始五杆附近ニテ分^{密電中二人ハミカカリ}一^{ハミカカリ}ハ七乃至八杆附近ヲ終始混界内ニ

アリテ索制中分離約一五分ニシテ反對側密電中ヨリ六杆高度三杆

ニ突如出現直ニ射還約二分後急變音聽知ヌ 尙約一分後原因不明

ノ水柱一ヲ西方ニ認メタリ

三五三五三・五三三六 天二Bケ一二(B) 本誌分ノ三、

林(佐藤)

六 九 受信 〇〇四一一五 譯了 〇五一一二 電 〇〇四二二三八 作概 〇

保安緊急



● 吳通・諾間航空隊
 ● 五航空隊隊口・横領口・第四特攻隊隊口
 機密第 〇八二〇二〇番電 二分ノ一、二

一 零水一機一六三〇着下階梯折損ニ付旋回不能下階梯關係一組急送
 サレ度

二 四發使用不能他三發良願

三 水路五〇〇〇崇好天時(十日頃迄好天ノ見込)離水可能ト認ム

四 熊野編隊隊(機艦騎橋)ニ曳航依頼可能

五 水害ノ爲汽車當方面五日不通

六 九七式飛行艇ニ燃料補給準備零水補用品搭載ノ上至急派遣サレ度

通 四六二二九 天二〇分一二(一二六に)積放 田中(小澤經)

昭和廿年六月拾壹日

人

六九 受信〇七一五 譯始〇八四五 譯了〇九五一 電自〇四三六二 至〇四三六四 繼作概 政〇 630

昭和廿年六月拾日

作

着 東京通信隊・横須賀通信隊・吳通信隊
報 海上護衛總司令部部隊各戸

機密第〇八二一三二番電 三分、一二三

究 艦本・軍務局・大本營海軍參謀部第二部・吳工廠

通報 (脱受)

第七艦隊戰訓連報第六號

一 水壓磁氣機雷の動搖ニ依リ自爆スルモノ、如シ海底掃海
具又ハ淺深度時限小型機雷ニ依リ掃海法ハ速ニ

研究ノ要ナリ

通四七二九

四七三七 呂一五十二 (B) 吳通

四七三八

關根 (増田) (1)

資料左ノ通

(イ) 六月七日福岡湾口附近水深二〇米附近風速一五米
突風二五米長溝五米浮揚機雷一六同日閉門西口
附近(水深二〇米以内)風速二〇米長溝五米浮揚
機雷六

(ロ) 從來流速大ナル處ニ浮揚機雷多シ

(ハ) 雷雷時近距離ナラ誘發セル例アリ

二六月八日〇〇〇増閉門來龍長敵機ニ依リ陸上落下機
雷一三個中二個ハ着地時爆發セリ

(2)

六九 受信三四〇
譯始一六四〇

發 譯了七〇〇電四四八
作概〇
段西務

昭和廿年六月拾日

報 着

二南置艦隊F

三三特根P 三三特根P・氷川丸
大本營海軍部

機密才〇九一〇二四番電

發 完 二G B 參謀長

通 報 二K 參謀長
ヤカル夕左勤武官

氷川丸前回行動中「アノボ」ヨ「ヤカル」間ニ於テ

三回ニ亘リ敵飛行機ヲ執拗ナル偵察ヲ受ケタル事矣

アリ同船履歷ニ鑑ミ今次貴方面行動中特ニ二十五

根機密才一六八二番電(五月)ニ依ル任務遂行ニ関シテハ

機密保持ニ留意相成度

通 四八八五 天一B(B)G F F 岩佐(土井)

六 九 受信一四五七 譯丁一七〇〇 電〇四四八二
 開始一六一〇 航 作 概 〇
 本

緊急



七 陸地航空部隊作戰命令着信處所
 横 通

海軍第七一航空戰隊司令官

機密第〇九一〇四五番電 分ノ一二

第七陸地航空部隊信電作第四六號

一、第七陸地航空部隊警戒課程中第一第二警戒配備別法ニ於ケル戰團
 機隊ノ項ヲ削除

二、其 陸部隊指揮官ハ適宜遼州沿岸及張河灣方面ニ出沒スル敵大
 型機ヲ攻撃セヨ

三五三A B 指揮官ハ二一〇部隊指揮官ヲシテ名古屋方面ニ於ケル敵
 B 一二九ニ對スル邊境並ニ紀伊半島沿岸ニ出沒スル敵大型機ニ對
 シ適宜攻撃ヲ實施セシムベシ。

遼四八九四、四八三五 呂一〇六二二(三九八五) 一P.C. 官六、明比

(字 海)

六九

受信一七五二五

了了一八一五

電〇四七三三八九

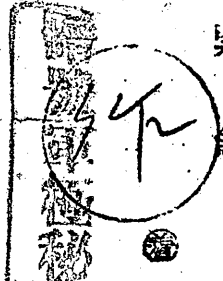
作機

緊急

五基地航空部隊戰團概報着信處所

臺灣空

633



機密第〇九一一二七番電

二分ノ二三

新竹攻部隊戰團概報（六月八日）

天山四機一六五五一一七〇七ノ間ニ發進一機二二〇〇渡名喜島西方
 ニ於テ南西ニ航行中ノ中型輸送船三隻（速力約六節）ヲ發見シ雷撃
 セルモ命中セズ一機二〇〇六那霸沖ニ於テ敵影ヲ認ム戰艦（又ハ大
 型巡洋艦）一隻巡洋艦二隻小型舟艇一（速力約一五節）ヲ發見シ戰
 艦（又ハ大型巡洋艦）雷撃セルモ效果不明

一二〇二〇渡名喜島東方ニ於テ北進中ノ巡洋艦一隻（速力一〇節）
 一二節）ヲ發見雷撃セルモ戰果不明ナリ以上何レモ二二四五迄ニ
 新竹歸着戰場附近天候曇差量七一八雲高二〇〇米一五〇〇米視界
 通五〇三六・四九三九 呂一八十二（一一三四・七五）カニガヤ
 稻岡・渡邊（復田）

昭和十年六月八日

二一五軒天候回復ノ見込ミストアリ、

三二〇〇六「ト」運送後連絡ナク未歸還。

昭和廿年六月拾日

六九 受信一五四三 譯始一六四五 譯了一八三〇 電〇四五一四 航作標本〇

緊急

共

符

天航空部隊作命着信縣所

機密第〇九一三三七番電

作

634

F B 信電令作第一六九號

一、對機動部隊戰法ニ左ヲ追加（區分、實施、時機、實施要領ノ順）

第五戰法 索敵攻鑿實施スル場合ハ群ヲ星爆戰ノ小數機ヲ以テ敵

機動部隊伏在海面ヲ適時索敵攻鑿偵察機ヲ以テ戰果確認

ニ本攻鑿指令左ニ依ル

(1) 第五戰法用意（時令ナケレバ二時間待機トス）

(2) 第五戰法發動（準備出來次第速ニ發進）

(3) 索敵攻鑿海面

(4) 部隊兵力（時令ナケレバ六機乃至八機トス）

海四九二三

第一〇六十二

20

REG B 機

井（吉）



六九

受信一八二〇七
譯始一八二〇七

譯了一九〇〇

電〇〇四五三七

航作標本〇

● 鹿屋航空基地

● 鳴尾航空基地

● 聯合機隊口・五航空機隊口・阪警口

機密第〇九一三四五番電

二分ノ二

宛 第七二航戰司令官

三三二部隊戦闘機報 (六月九日)

〇七一〇頃ヨリ岬家^ノ 附近ニ集結進入セル日一二九約一三〇機

〇八三〇ヨリ一〇〇〇ノ間阪神地區ニ來襲鳴尾地區附近ニ爆彈投下

〇七三五ヨリ零機一機雷電七機月光一機彗星一機 計二〇機逐次

發進一〇三〇迄ニ全機降着天候曇敵ヲ捕捉攻撃セルモノ一三機

通四九七八
五〇〇三

日一〇月十二日

阪警

岩佐 (吉井)

(1)

昭和廿六年六月拾日

一、戦果 撃破六機（内一機撃墜機不確実）

二、被害 被撃機一機零式戦闘機一機燃料缺乏ノ爲不時着大破搭乗員

無事 鳴尾、川西航空機工場六回ニ亘リ被爆被害相当アル見込

六九

受領一七八〇〇三

丁二二二〇

電〇四九二九

作概〇

昭和十年六月拾壹日

緊急



五基地航空部隊戦闘概報着信處所

高雄航空基地

機密第〇九一五一三番電

發 南部攻撃部隊指揮官

南部攻撃部隊陸爆隊戦闘概報(八日)中一番機ノ項ヲ一番機(塚本大尉機)(二二四〇)ノ我レ片枝飛行トナル偵察員負傷(二二四四第一

基隆揚燈信號點セヨヲ發信二二〇一迄連絡アリ以後消息不明ニ改ム

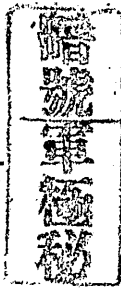
東通駐 本電誤字ノ爲遲延

通五〇二九 馬一ケケ十二(七五六五〇)五〇〇放山下(加藤)

昭和廿年六月録

六九 受信一九〇六
譯始ニ〇ニ〇
譯了ニ三三五 電〇四六六ニ謀通
緊急 〇 二 一 通

① 一〇方面艦隊P・東印部隊各下
② 東 通



機密ヲ〇九一スニシテ為電

〇三四八・〇五四七スラバヤヨリ三一〇度ノ英潜水艦發重
發令時刻 三四六・二二四八) 看信者英療輸送部隊

N一R一他英系ニ艦所ハ一一五三オロニガホ放送ニ

係リ其ノ宛ハ潜水部隊全般ニシテN一R一等ヲ

消去セリアリ足柄ノ件トモ關聯アルネイ湾ノ敵揚

陸部隊ハ英療輸送部隊ノ算ヲ思ハレム。

通五〇六五 呂(〇二一八)(一八三三七五七)三通 上譯(〇七四)

昭和廿年六月拾日

六九 受信二一九五六 譯了〇〇〇四 電〇〇四七七三六 作編〇

至急 東 阪 通



海軍總司令部、各級各營各口、三、五、一〇各航空隊各口

機密

機密第〇九一七四一番電 二分ノ一二

發 阪警長官

宛 軍令部總長 海軍大臣

大阪警備府機密報二〇號其ノ二

一、第三三二航空隊零機一、一雷機七月光一、彗星一機ヲ以テ鳴尾上空ニテ

激撃ス 結果左ノ如シ

零機一機破五機

二、被害 川西防空隊戦死者五、行方不明一、重傷者六、輕傷者五

五五〇八七六 口一Bケ十二(B) 阪警 六 (宗)

川西航空機鳴尾製作所ハ第一第二鍛金木具工場炊事場食堂全焼
 第一機室及變電所一個所至近隣破壊其ノ他工場全般ニ亘リスレ
 卜窓硝子殆下全亂破損耐彈建築物内ノ工作機械ハ損害ナク
 日ヲ以テ作業開始可能ノ見込ナリ
 豊年製油、昭和電機、川崎航空機明石工場相當ノ損害アル見込目下
 調査中。

六

至急

九 受信二三二一
百 譯始口四〇九

譯了口六五八 電口四八〇五作概〇

作

東

通

東

聯合艦隊各航空艦隊口口。一護衛艦隊口口
自中隊空基地(陸上)支那方面艦隊口口
各領各警各口

海軍省

機密才口九一八口九為重

通報

大海參一部

大海參二部 軍務局

航海總務部

日軍命令第四八號

一月十五日以後降与介、間内地及指糧管所、海軍
部隊ハ特令ハ場合、外交運輸送用トシテ大艦機、
使用ヲ停止内地ヨリ台湾及支那方面間ハ航空輸送
ニ依リテモ右ニ同シ

通五八二 呂(口口口口口口) 尾山(口口口口)

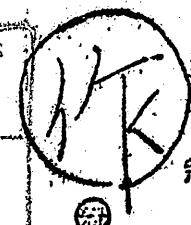
昭和廿年六月拾日

二内地所在海軍部隊（第一挺進航空部隊ヲ除ク）
 係有、大形輸送機ハ六月十五日迄ニ一吋之ヲ第一挺進航
 空部隊ニ引渡スニ依リ第一挺進航空部隊指揮官
 ハ該部隊指揮官ノ協議ニ依リ右機材ヲ空輸スヘシ
 三第一挺進航空部隊指揮官ハ特令ニ依リ大形輸送機ヲ
 以テスル作戦兵力ノ展開輸送並ニ軍需品ノ緊急輸
 送ヲ實施スヘシ。

六一〇 受信〇〇一三 譯了〇六二〇 威〇四八一四 作 榎
譯始〇四二〇

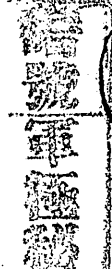
昭和廿年六月

至 急



天航空部隊戦闘概報着信盤所

大村航空基地



機密第〇九二〇三一番電

三四三空戦闘概報(六月九日)

南九州地區敵陸上戦闘機來襲ノ報ニ依リ一六一五直ニ此系電三〇機發
一六四〇ヨリ一七三五迄制空ナルを敵情ニ就テハ不明 頃之ヲ捕
一八四五迄ニ二八機歸着(他ノ二機ハ夫々鹿兒島竝ニ國分基地ニ不
時着)

戦果被害ナシ

六月二日ノ戦闘概報ニ左記追加戦果撃墜四〇一 二機(計一六
機)被害自爆一機
通五二一二 局一日ケ一二一七八七五(一八四四)

高橋(宗見)

作

五六 一〇 受信 〇〇七三三〇 了 〇八二五 〇〇八八四三航 概本〇

横濱戰國報着信監所

機密第〇九二〇四五番電 二分ノ二

一、B-129 五〇機〇八三〇頃ヨリ逐次熊野灘ヨリ侵入名古屋南

部地區ヲ爆撃後〇九三〇頃濱名湖附近ヨリ脱セリ

尙同時刻別ニB-129 一〇〇機紀伊水道ヨリ侵入明石及尼崎

附近爆撃後志摩半島ヨリ脱セリ

二、P-151約五〇機(B-129 三機誘導)一一五〇頃志摩半島

ヨリ侵入一部明野(其ノ他不詳)附近ヲ攻撃一三〇〇頃遠州灘

ヨリ脱セリ

三、B-124侵入情況機密侵入時刻経路ノ順

通五二八二五 P-1Bケ一二(三一八)七FGB放 谷島(志)

昭和廿年六月拾日

(4) 一〇九一五 御前崎駿河灣

(5) 一〇一〇一五 御前崎駿河灣石室

(6) 一一二〇六 吹九十九里濱勝浦

(7) 一一二〇〇 志摩半島

(8) 一一二〇〇 遠州灘

四〇一 二九一 一〇一五三五 天龍川口ヨリ侵入長野南前甲府

經テ一六一〇 鴨川附近ヨリ脱去セリ。

Handwritten mark resembling 'L' or 'Z' with a slash.

六一〇 受領 〇〇七三〇七 〇八四五 〇四八二六

大 漢 通

東 漢 通 武 官

〇九二二

大漢書府志

軍務局長

海軍部本務課

〇一七〇三

Vertical text columns within the main frame, including characters like '目下' and '収申'.

〇三〇 天...

泉川 (川崎)

第拾十部

20.8.11 蓋印

642

12

至急

六一〇 受信二〇七四〇七

了二二五〇

自〇〇五二四一

航本

天航空部隊司令部報告信箋所

共

符

機密第一〇一〇五八番電

五分ノ一、二、三、四、五

T F B 戦國海報 (六月十日〇八〇〇)

一八日夜間ヨリ日黎明ニ互リ陸攻三飛行機一零式水偵三機ヲ以テ

一三三五 東方海面ヲ索敵二〇一〇飛行機ハ南大東島ノ一四五度

六〇度ニテ大部隊ヲ探知セリ(九日〇二五〇探知通信状況ニ依レ

ハ艦屋ノ一六七度方向ニX V E (三F 旗艦ト推定)ヲ測定セル點

ヨリ大部隊ハ有力ナルK D Bト推定

云九日早朝ヨリ彩雲二機一〇〇式司令偵察機一機ヲ以テ沖繩東方

海面ヲ索敵〇九〇二沖繩南端一四〇度八〇渾附近ニ於テ正親空母

五五五〇一、五五九六、五八七、コ一Bケ一二(七八七五K)一K F G B

長谷川

昭和廿年六月拾貳日

643

三隻 特空母三隻 其ノ他敵隻(目視偵察)針路三一〇度速力五節
 〇九五〇沖繩南端一四〇度六〇渾 戰艦一隻針路北西 一〇〇〇
 沖繩南端一二五度五〇渾 輸送船五隻其ノ他一〇敵隻針路北西ヲ發見
 セリ敵機動部隊ノ北上ヲ豫期彩雲一機ヲ以テ一一〇頃發進徳之島
 南東方海面ヲ索敵聲星隊ノ追撃ヲ企圖セルモ敵ヲ發見スルニ至
 ラズ 寫真判續ノ結果航空母艦六隻ハ橋本特空母ナルコト確實ニシ
 テ(護衛驅逐艦數隻)七日一三〇頃電話傍受セル「ヨークタウン」
 「タイコンデローガ」「シヤングリラ」ヲ含マズ九州ヨリ南大東島
 南方海面又ハ沖繩南東方海面ニ正規空母ヲ含ム有力ナル機動部隊存
 在スルモノト推定 一八二〇沖繩周邊艦船攻撃ノ爲發見七機(内一
 機故障ノ爲着陸)天山四機(故障ノ爲攻撃時機ヲ逸シ全機取止トセ
 二一三〇迄ニ發進セルモノ一部天候不良ノ爲引返ス他ハ敵ヲ發見スル
 ニ至ラズ伊江島飛行場及北中飛行場爆撃ノ爲白菊五(内二機引返ス
 並ニ夜襲四(内一機引返ス)陸軍四機墜落一機〇三四五迄ニ發進天候
 不良ヲ冒シ進行セハス夜襲ノ追撃並ニ雪ノ爲效果確認シ得ズ

被害 重爆一 不時着機体沈没 彗星夜戦一未歸還

四 美空隊 零夜戦二 彗星夜戦二 九州以西 索敵攻彗星後 同隊紫電三零式
夜戦四 大島附近 於敵艦上 墜不確實被害彗星夜戦一未歸還

五 陸攻二機二三三〇迄ニ發進喜界島ニ物量投下全機歸着

昭和廿六年六月給試報

648